

エリアウェーブ

峡 東 教 育 事 務 所
地 域 教 育 支 援 ス タ ッ プ
 TEL 0553-20-2731
 FAX 0553-20-2733

◎ 回覧・配付をお願いします。増し刷り配付はご自由にどうぞ。山梨県庁のホームページでも掲載中です。

<http://www.pref.yamanashi.jp/barrier/html/kyoiku-hym/index.html>

◎ ご意見・ご感想、情報提供はこちらまで。 Email : hirayama-atxj@pref.yamanashi.lg.jp

「子どもに教えたい3つの力」

将来、子どもたちに必要な力とは「生きる力」ではないでしょうか。子どもたちは、さまざまな体験を通して社会的スキルを身につけ、生きる力を高めながら自立していきます。

生きる力を持った子どもを育てるのに、子どもに教えたいこととして、菅原 裕子氏(NPO 法人ハートフルコミュニケーション代表理事)は「**愛すること**」「**責任**」「**人の役に立つ喜び**」3つのポイントをあげています。

1 「愛すること」=自己肯定感

子どもをあるがまま受け入れることです。そして、プラスの言葉をたくさんかけてあげること。この無条件の愛情が「自分のことが好き」「自分を、人を大事にしたい」という気持ちを育みます。

2 「責任」

責任とは、英語で Responsibility、Response (反応する) + Ability (能力)、反応する能力を言います。

子どもに教えたい責任とは、日常のさまざまな事象や刺激に対して、自分で反応することです。そのためには、子どもの仕事をとりあげないことです。

例えば、学校の支度を親が子どもの代わりにする。忘れ物をして不快を感じた時、子どもは親のせいになります。でも、自分が用意して忘れて不快を感じたとしたら、次回から忘れないように自分で注意し、親のせいにしたりしません。

本来子どもがやるべきことを親が変わってやっでは、子どもの反応する能力=生きる力は身につけません。

「飢えている人がいたら魚を釣ってあげますか? それとも魚の釣り方を教えますか?」という有名な

質問があります。

飢えている人に魚を釣ってあげるのは親切で尊い行為です。でもずっと魚を釣り続けてあげたら、自分で解決することなく、常に人に依存して生きていくこととなります。魚を釣る体験や問題解決の経験を奪ってしまいます。

親が良かれと思ってしている行為、親の愛の行動が、無気力な子どもを育ててしまいます。子どもの成長に合わせて、親がヘルプからサポートする側へと変化する柔軟性をもつ必要があります。

3 「人の役に立つ喜び」

「子どもはほめて育てよ」という考えがありますが、この場合、子どもに「ほめられたいからやる」「ほめる人がいないからやらない」といった条件付きの愛を与えることになってしまう危険があります。

人の役に立つ喜びを教えるには、家のお手伝いをして、まず親の役にたってもらうことから始めるのがいいでしょう。

この時のポイントとなるのが、子どもを「いい子ね」とほめるのではなく、「ありがとう」「助かったよ」と感謝、喜びを伝えることです。

人は本来、人に役立ちたいと願っています。自分の存在をもって人の役に立つことができるのはうれしいことなのです。

人の役に立つ喜びを知っている子どもは、親切で優しい人に育つそうです。

「子どもの心のコーチング」より 菅原 裕子著 出版 リヨン社



～ 県立産業技術短期大学校 ～

「ロボコンやまなし2012」に出場しました。

電子技術科では、学生が卒業研究としてロボット製作等に取り組んでおり、その成果を発揮すべく、競技大会に出場しています。

そのうち、昨年11月24日、アイメッセ山梨（甲府市）において開催された「ロボコンやまなし2012」の「自律型ゴルフロボット競技」と「ソーラーカー競技」の2部門に出場しました。

人間のゴルフと同じようにロボットがホールにボールを入れるまでの打数を競う「自律型ゴルフロボット競技」部門では、残念ながら入賞を果たすことができませんでしたが、「ソーラーカー競技」部門では、本校から出場したソーラーカーが優勝、準優勝となりました。

大会出場を通じてこれまでに学んできた知識や技術を応用し、創意工夫しながらものづくりを行ったことで、実践的な技術・技能をさらに向上することができました。



塩山高校 金融教育公開研究会



2月13日、塩山高等学校において、金融教育公開研究会が行われました。

「日米のディスニーで学んだ感動のサービス」について加賀屋 克美氏（有限会社 加賀屋 感動ストアマネージメント 代表取締役）の講演がありました。また、「地歴・公民科」「家庭科」「商業科」「総合的な学習の時間」の学習に、金融を取り入れた授業を公開しました。



3年生の商業技術の授業では、金利の知識や金利計算について実践的な授業が展開されていました。

山梨市では、発達障害児支援に関する山梨市関係者によるワーキンググループを平成23年度に起ち上げました。学校教育課・福祉事務所・健康増進課の職員が中心となり、それぞれの立場の課題を共有し、研修会等を行っています。

2月14日、山梨市役所で行われた研修会では、山梨大学大学院教授の相原正男先生から、IQでは評価できない発達障害の増加、進学や就労における課題など、「発達障害児の支援」について講義をいただきました。

また、障害児支援のための福祉制度について福祉事務所 障害福祉担当者の説明や、各支援施設、コーディネーターから活動の様子が紹介されました。

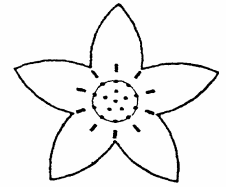
心身の発達につまずきをもつ子どもや保護者の立場に立ち、どのように関わっていけるか、どのような対応が必要か、スムーズな支援のためにワーキンググループを中心に今後も研修会が行われる予定です。





昭和36年校旗樹立

山梨県立ろう学校



校章「やまなし」の花

本校は幼稚部・小学部・中学部・高等部の4つの学部と支援教育部からなる、県下で唯一の聴覚障害教育専門の学校です。支援教育部では、早期教育と通級による指導及び教育相談を行っています。また、寄宿舎もあります。

本校は今年、創立90年を迎えました。平成24年11月15日(木)には、「創立90周年記念式典」が行われましたが、その記念行事と『交流及び共同学習』の様子を紹介させていただきます。

★ 記念行事 ★ 幼児・児童・生徒による太鼓の発表

「薔薇色の音」 作詞・作曲 天野 宣



「薔薇色の音」は、天野 宣先生が、本校の子どもたちに作曲してくださいました。一人一人が自分のパートのリズムを覚え、拍を意識しながら目と耳と頭で互いのリズムをきき合い、音を編んで曲を創り上げていきました。

大自然の中に建つ本校をイメージして・・・という作曲者の意図は、感受性豊かな子どもたちによる笛吹川の石で表現されました。演奏後、来賓の方々から、たくさんの拍手をいただきました。

★ 交流及び共同学習から ★

中学部：春日居中学校
強歩大会



毎年参加している強歩大会では、同年代の仲間と同じ目標に向かって、仲間と競い合い、自己と闘うよい機会になっています。

小学部：山梨小学校
山小いられあい祭り



お化け屋敷を出店したり、ゲームを通して山梨小の児童と楽しく活動しました。

◆◆◆ 地域教育推進事業を振り返って ◆◆◆

本年度、地域教育推進業務として次のようなものがありました。

- ① 峡東地域教育推進連絡協議会の運営
- ② 地域の子育ての支援の推進、子育て講演会の開催
- ③ 家庭教育推進
- ④ 保幼、小、中、高、特支、大学の連携推進
- ⑤ 成人教育の推進（ことぶき勸学院等）
- ⑥ 青少年教育の推進（やまなし少年海洋道中等）・新しい学校づくり人づくり
- ⑦ 地域教育情報誌「エリアウェッブ」の発行



これらの業務のうち主なものをあげながら、1年間を振り返ってみたいと思います。

◆ 峡東地域教育推進連絡協議会の運営

- ・ 総会 平成24年6月28日 参加者52名（山梨市民会館）
平成23年度事業報告、平成24年度役員選出・事業計画について承認。
- ・ 実務者会 平成25年度1月17日（東山梨合同庁舎内）
平成24年度の活動経過報告に基づき次年度への意見交換を行いました。来年度へ向けて、「3市の教育状況の情報交換の場としたい」「災害・いじめ・体罰など現状の課題に即した内容を」「教職員自身が元気の出る内容を」などの要望が出されました。

◆ 子育て講演会・連携セミナーの開催

子育て講演会

平成24年6月28日（木）
山梨市民会館
「子どもとの絆づくり」
～親子関係のあり方～
講師 川邊 修作氏
（認定カウンセラー）
参加者 165名

保幼・小・中連携セミナー

平成24年8月9日（木）
甲州市民文化会館
*小グループでの話し合い
「子どもの環境移行への支援」
～よりよい連携のために必要なことは何か～
講師 谷口 明子氏
（山梨大学大学院教授）
参加者 89名

人権のための講演会

平成24年11月22日（木）
いちのみや桃の里ふれあい文化館
「共に育ち合うこと」
～インクルーシブ教育と人権～
講師 鳥海 順子氏
（山梨大学大学院教授）
参加者 82名

◆ 地域住民による学校支援体制・放課後等の子どもたちの体験・交流活動の場づくりの推進

平成22年度に「学校支援地域本部事業」は終了しましたが、山梨市・甲州市では、学校の要請に応じて学習活動支援・環境美化・登下校の安全指導・部活動支援などボランティアの方々が活動しています。

「放課後子どもプラン推進事業」では、笛吹市の富士見小と石和西小で放課後に、NPO法人学びの広場ふえふきが、学習活動支援や様々な体験教室などを、学生ボランティアを活用したりしながら行いました。

山梨市では、後屋敷小の定期的な活動と、年3回のコスミックカレッジ（科学の学び）を実施しました。

◆ 地域の子育て支援推進

「子育て支援リーダー養成講座」では、子育て支援に関わる課題について臨想的に解決し、ワークショップ形式を用いた研修を行いました。子育て支援リーダーとして、地域ぐるみの子育てを実現できる

よう今後も支援していきたいと思えます。

◆ ことぶき勸学院

「学びたい」という意欲をもった60歳以上の方々が、東八代・東山梨学園・峡東教室に集まり、身近な問題から現代的な課題、歴史、芸術など多様な内容を学びました。その他に、勸学院祭、小中高校生との交流や家庭科支援、研修旅行がありました。

◆ 地域教育情報誌「エリアウェッブ」の発行

年間で8回発行し、管内の保幼・小・中・高・特・大、教育関係機関、県庁関係課等へ配布しました。今年度は思うように取材に行くことが出来ず、地域や取り上げた機関に偏りが出てしまったことをお詫び申し上げます。今後も情報誌を発行していきますので、子育て支援の様子や各園・所・学校の活動の様子、地域での取り組みなど多方面からの情報をお寄せ頂ければ幸いです。

一年間、ご愛読いただき、ありがとうございました。